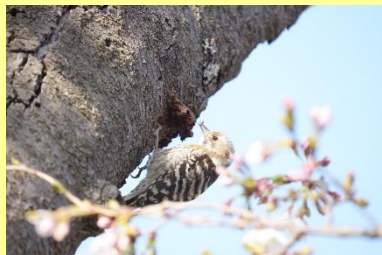


⑪ホオジロ（留鳥：全長 16.5 cm）

鳴き声が「一筆啓上仕り候」と聞きなされます。木や電柱のてっぺんなどで高らかにさえずる姿をよく見ることができます。

⑫コゲラ（留鳥：全長 15 cm）

スズメくらいの大きさの最も身近なキツツキです。繁殖期には、さえずる代わりに木を叩いて音を出します（ドラミング）。



⑬キビタキ（夏鳥：全長 13.5 cm）

オレンジ色ののどを膨らませながら「ホイ、ヒーロ、オーシーツクツク」などの美しい声で鳴きます。

渡りの時期には、市街地でも観察されます。

⑭カケス（留鳥：全長 33 cm）

カラスの仲間で、いろいろな鳥の鳴きまねが上手ですが、「ジャー、ジャー」という自分の声も混ぜて鳴くので、正体がすぐにばれてしまうこともあります。秋には、ドングリを貯食することがあります。



野鳥写真展「ヤビツ峠周辺の野鳥たち」



同時開催！
愛鳥週間ポスター
原画展

期間：2026年 10月 13日（火）～10月 30日（金）

※10月 19日（月）は休館

場所：秦野市本町公民館

主催：全国愛鳥教育研究会

共催：公益財団法人 日本鳥類保護連盟・同 神奈川県支部



① ヤマガラ（留鳥：全長 14 cm）

「ニィニィニィ」と囀ります。オレンジ色のお腹が特徴です。ヤビツ峠レストハウスでは、外壁にかけていたじょうろの中に巣を作りました。

② ミソサザイ（漂鳥：全長 10.5 cm）

日本の野鳥の中では最も小さな鳥の一種となります。沢沿いの岩場などで谷間に響く大きな美しい声でさえずります。



② メジロ（留鳥：全長 11.5 cm）

花の蜜や果実が好きで、春には、ウメやサクラの花にたくさん集まってきます。舌の先が筆状に細かく分かれていて、蜜をなめとりやすくなっています。



④ クマタカ（留鳥：全長 72～80 cm）

丹沢では約 20 つがいが繁殖しているとされています。丹沢の生態系の頂点に君臨する猛禽類で、幅の広い翼が特徴です。神奈川県絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。



⑤ カヤクグリ（漂鳥：全長 14 cm）

夏は高山で繁殖し、冬になるとヤビツ峠付近や山麓に下りてきます。日本固有種。あまり人を恐れません。



⑥ オオルリ（夏鳥：全長 16.5 cm）

日本3鳴鳥（ウグイス・オオルリ・コマドリ）の一つ。夏鳥として日本に渡来し、木のてっぺんでのびやかな声でさえずります。

⑦ クロツグミ（夏鳥：全長 21.5 cm）

高い枝先に止まり、「キョロイ、キョロイ、コキーヨ、コケエコ、ケ、コキーヨ」というような複雑で大きな声で鳴きます。



⑨ シジュウカラ（留鳥：全長 14.5 cm）

「ツツピー、ツツピー」とよくさえずります。巣箱を積極的に利用して繁殖をします。巣の中には苔をたっぷり敷き詰めます。

⑧ ホトトギス（夏鳥：全長 27.5 cm）

「特許許可局」という聞きなしで有名です。ウグイスの巣に卵を産み付けて、自分の子を育てさせます（托卵）。



⑩ エナガ（留鳥：全長 13.5 cm）

「ジュリリ、ジュリリ」と鳴きます。長い尾羽を柄に見立てて、この名がつけました。人気のシマエナガは、このエナガの北海道に住む亜種です。